

## 麻しん(はしか)患者の発生に伴う注意喚起について

2026年3月2日（月）、市内在住の下記の者について、豊橋市内の医療機関から豊橋市保健所に麻しんの発生届（臨床診断例）が提出され、本日、愛知県衛生研究所で遺伝子（PCR）検査を実施したところ、陽性であることが判明しました。また、本市が疫学調査を実施したところ、周囲へ感染させるおそれがある時期に医療機関を受診していますが、他の患者との接触はありません。

本公表は、2月以降、東三河地域において麻しん患者が多数発生していることから広く注意喚起するものです。報道機関各位におかれましてはプライバシー保護等の観点から、患者等の個人に係る情報について、提供資料の範囲内での報道に格段のご配慮をお願いします。また、関係者等への直接のお問い合わせはお控えください。

### 記

#### 1. 患者概要（豊橋市発表9例目）

患者	10代 男性	麻しん患者との接触：有り（東三河の県立高等学校の生徒）
	主な症状：発熱、咳、発疹	
	麻しん予防接種歴：2回	渡航歴：なし
日付	発病の経過	
2月28日（土）	発熱、咳	
3月1日（日）	9：30～10：30 豊橋市休日夜間急病診療所受診（他の患者と接触なし）	
3月2日（月）	発疹 19：30～21：00 豊橋市民病院受診（他の患者と接触なし） 発生届提出	
3月3日（火）	検体提出 遺伝子（PCR）検査の結果、麻しんと確定	

※ 移動は自家用車を使用しています。

※ 同意が得られた施設について施設名を公表しています。

#### 2. 注意していただくこと

麻しんを疑う症状（発熱・発疹・咳・鼻水・目の充血など）が現れた場合は、必ず事前に医療機関に連絡し、麻しんの疑いがあることを伝えてください。受診の際は公共交通機関の利用を控えて、医療機関の指示に従って受診してください。

### 3. 麻しん（はしか）について

主な症状	感染後に10～12日の潜伏期を経て、38℃前後の発熱が2～4日続き、上気道炎症状（咳、鼻水、咽頭痛）と結膜炎症状（結膜充血、目やに）がほぼ同時に現れる。その後、発熱が下降した後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。
潜伏期間	約10～12日間
治療法	特異的な治療法はなく、対症療法が中心となります。
予防方法	麻しんは空気感染するため、手洗いやマスクでは十分な予防ができません。そのため、予防接種が最も有効です。 海外渡航を計画している方、麻しんのワクチンを2回接種していない方は、予防接種を検討することをお勧めします。 麻しん患者と接触した場合、接触後72時間以内であれば緊急ワクチン接種により発病を予防できる可能性があります。

### 4. 参考（全国及び愛知県、豊橋市における麻しんの発生状況）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
全国	279	746	10	6	6	28	45	265
愛知県	37	41	2	2	0	2	2	19
豊橋市	4	0	0	1	0	0	0	0

愛知県における発生状況の詳細については、愛知県衛生研究所のWebページ「本県における麻しん・風しん患者発生報告状況」に掲載しています。

([https://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/mssl/mssl\\_2026.html](https://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/mssl/mssl_2026.html))

問合先 豊橋市保健所 保健医療企画課 主幹 山本（電話 39-9104）

